

## まちのカルチャー人たち⑥

みんなが気軽に楽しめる音楽を  
広げたいと思っています。

池田 俊さん

タウンウォッチャー  
文・船木 香世子(穴虫)

自宅のリビングルームでトランペットを演奏する姿は、プロの演奏家として、またひとりの音楽好きな人として、とても楽しげな様子です。大阪フィルハーモニー交響楽団の元・首席トランペット奏者で、現在ご自身のブラス・アンサンブルや若手演奏家の育成で活躍中の池田俊さんに、これまでの音楽生活を振り返りながら、音楽の楽しみについてお聞きしました。

「音楽に触れるのは、人それぞれなんでもいいと思うんです。僕自身、姉が習っていたピアノが音楽を好きになるきっかけだったから。それで中学に入学して吹奏楽部に入ったんです。トランペットをやるきっかけ？実は顧問の先生に入学を申し出た時ちょうどトランペットをやっている先輩が通りかかって、「おい、この子、今日から入部だからよろしくな」と。有無を言わさず、僕はトランペットということになってね。もしその人がクラリネットだったら今頃きつとクラリネットをやっているんじゃないかな？(笑)」そんな池田さんのおおらかさは、「楽器ごとに演奏者のキャラクターがあって、トランペットはとにかく明るい」といって自身の言葉がびびったりです。池田さんは本格的に音楽を勉強したいと、附属音楽高等学校を経て大阪音楽大学へすすまれました。「本当に楽しかったな。もともと歌が好きだったから、声が響く廊下でオペラ歌手の真似事をしたりね。そうそう、オーケストラのレッスン

は大学と合同なんですけど、弦楽器の音が美しかったのが印象的でしたね。ますます音楽に惹かれていったんです」

そして、大学在学中に出会った朝比奈隆さんに見込まれ、卒業と同時に大阪フィルハーモニー交響楽団でプロの演奏家としての生活がスタートしました。

「コンサートを聴きに来てくだ

さるお客さまがいる。失敗はできません。しかもオーケストラの金管楽器は、出番が少ない。それだけに次に音を出すときの集中力がすごいんですよ。キープするのが大変。それがプロの仕事なんです。もちろんレコーディングも同じです」

二十五年間在籍して首席奏者までつとめた大フィルを退職され、非常勤講師として大学などで指導さ

れています。どんな思いがあったのですか？

「オーケストラでの僕の経験をもちに、若い人たちを育てたいとずっと考えていたんです。オーケストラの演奏者として、優れた人材をね。それは、オーケストラとの両立が僕にとって難しかった」

また、池田さんはご自身のブラス・アンサンブルを率いて演奏活動をされています。

「ドイツでの留学時代、教会なんかでちよつとしたコンサートがあつて、小さな街なのにお客さんがとても多かった。一般の人が気軽に楽しむことができる音楽があるんですね。それに感激したんです。ここ香芝市はふたかみ文化センターにすばらしいホールを持っている。そんな街に暮らしているのだから、市民オーケストラでもいい、ブラスバンドでもいい、タンブスの奥に眠っている楽器を引っ張り出して、みんなが演奏したり聴いたりといった音楽を楽しむ機会をどんどん広げたいんですよ。それは、オーケストラの団員としての経験と現在フリーランスの演奏家として活動している僕だからこそお手伝いできることだと思っただけです」

今年十二月二十一日、ふたかみ文化センターで池田さんが率いるクリスマス・コンサートが開催されます。このコンサートを通して、この街に、音楽の楽しみがもたらされるかもしれません。

